

山口・周防国府跡

1 所在地 山口県防府市多々良

2 調査期間 一九八六年(昭61)二月～一九八七年三月

3 発掘機関 防府市教育委員会・周防国府跡調査会

4 調査担当者 吉瀬勝康

5 遺跡の種類 官衙跡

6 遺跡の年代 奈良時代～江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

周防国府跡は、国府遺跡を代表するものとして、中心部の二町域、国府八町域の四隅、船所・浜宮地区などが史跡指定されている。防



(防府)

府市教育委員会では現在主として指定地以外の国府域の調査を継続的に行っており、一九八六年度末で四七次を数える。

第四七次調査地は、国府中心部「二町域」の北西側に接する位置にある。土層の観察を主眼とした幅3m

のトレンチで、奈良～平安時代の自然河川と人工的な溝を検出した。この自然河川遺構の奈良時代の埋土である中層から木簡が一点出土した。伴出遺物には須恵器、土師器、木製盤などがある。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「三〇山公〇〇〇〇」

(817)×31×11 019

「三家山公」については、人名である可能性が高い。その下の三文字については墨書はしっかりしているものの該当する文字がわからない。

(吉瀬勝康)